

# 吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）

令和5年9月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ダイズほ場での発生量はやや多い状況です

### 1 発生状況

8月下旬に県内9地点18ほ場（ダイズ）で行った巡回調査において、吸実性カメムシ類の発生量は100株あたり平均1.00頭（平年0.31頭、前年0.11頭）と過去10年間と比較して2番目に多い状況でした。

また、今後、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場へ、吸実性カメムシ類の1種であるミナミアオカメムシ（図）が移動する可能性があるため、注意が必要です。

### 2 吸実性カメムシ類について

主な種は、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ等です。

吸実性カメムシ類はダイズの子実を吸汁加害し、その被害はダイズの生育ステージにより異なります。

莢伸長初期から子実肥大初期の被害は、莢の発育不全による落下や、子実が肥大しない板莢の発生等があります。

子実肥大中期以降の被害は、奇形粒、変色粒であり、品質の低下につながります。

また、吸実性カメムシ類による加害が著しい場合、子実への養分の転流が進まないため、茎葉が緑のまま落葉しない「青立ち」を引き起こすことがあります。



図 ミナミアオカメムシ

### 3 防除対策

表を参考に子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょ。その後も発生が続くようであれば、7～10日後に再度防除を行いましょ。

表 だいの吸実性カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	収穫14日前まで	散布	2回以内	3A
キラップフロアブル	収穫7日前まで	散布、 無人ヘリコプターによる散布	2回以内	2B
スタークル液剤10	収穫7日前まで	散布、 無人航空機による散布 空中散布	2回以内	4A
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	収穫7日前まで	散布		

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示し、詳細は、

[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf) を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。